

平成27年度 部局自己評価報告書（24:附属図書館）

Ⅲ 部局別評価指標(取組分)

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限:(1)～(2)合わせて7,000字以内

- (1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の進捗状況・成果

詳細は、「Ⅲ 部局別評価指標」(2)を参照のこと。

(2)「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策及びミッションの再定義(強み・特色・社会的役割)の実現に向けた取組等の進捗状況・成果

1 学術情報整備計画の促進<部局ビジョンから>

従来、図書館商議会で検討してきた本学の学術情報（電子ジャーナル・データベース等）整備計画の検討を継続するとともに、わが国の国公立大学における学術情報の安定的・継続的確保と提供を目指す大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携・協力しつつ、ワールドクラスへの飛躍に相応しい研究環境の将来展望を検討する。（Vision 2：研究関連）

- ・学術情報整備に係る資料費の値上がりが見込まれることから、平成 26 年度に学術情報整備検討委員会で最大規模パッケージ（エルゼビア社）の見直しを図った上で、出版社と交渉した結果、非常に有利な契約条件（3年間値上げなし）を獲得することができた。

2 機関リポジトリによる教育・研究成果の発信<部局ビジョンから>

東北大学機関リポジトリ（TOUR）の整備・充実を図るとともに、2013 年度分から電子的公開が義務づけられた学位論文について網羅的収集を実施する。（Vision 2：研究、Vision 5：社会学連携関連）

- ・東北大学機関リポジトリ（TOUR）では、紀要論文、学術論文及び学位論文等の学内の教育・研究成果を電子的に公開している。平成26年度は、約2,314件のコンテンツを公開し、登録総数は約49,252件となった。学術論文とともに、インターネット公開が原則となった学位論文の登録促進のため、関係部署と連携を取りながら登録促進に努めている。

3 各図書館での学習環境の整備<部局ビジョンから>

附属図書館本館改修によるラーニング・commons整備（2012～2014年度）、青葉山新キャンパスにおける新図書館の整備（2014年度～）に引き続き、医学分館・北青葉山分館・工学分館についても、主体的な学びと知的交流に最適な場への整備を図る。（Vision 1：教育関連、Vision 6：キャンパス関連）

- ・本館改修工事では、事務室を縮小した2階スペースにグローバル学習室を新設した。このグローバル学習室には、英語多読リーダーズ等の語学教材・留学情報誌とともに、留学生用図書も配置し、内外の学生がグローバルな修学を図るために最適の場として運用している。
- ・平成 27 年 4 月、本館エントランスに世界的ブランドの図書館カフェを新設し、学生・留学生や教職員の知的交流の場として提供している。
- ・本館内に、セルフで貸借できる PC ロッカーを設置することで、従来のデスクトップ 75 台に加えて、さらに約 40 台のノート PC の利用を可能とした。
- ・青葉山新キャンパスの図書館（ラーニング・commonsを含む）の建物設計を完了し、平成 29 年度のサービス開始に向けて着工している。
- ・平成 21 年度から実施している学生用図書整備事業として、平成 26 年度は約 17,000 冊を整備した。

これら新刊の基本的学習図書のほか、英語多読学習授業のためのリーダーズ、院生のための専門書等も整備した。また、毎年恒例の学生選書企画による選定も実施し、学生のニーズに沿った図書を整備している。

4 社会・地域への知の還元<部局ビジョンから>

図書館所蔵資料を最大限に活用した知を還元する活動（展示会・講演会の開催等）を実施するとともに、地域の観光資源となりうる常設的な展示会場の実現を図る。（Vision 5：社会学連携関連）

- ・本館1号館の改修工事と同時に、2号館の貴重書庫の全面改修も行き、国宝や漱石文庫等の貴重資料を後世に伝えるために、安全で良好な保存環境を整備することができた。
- ・平成26年10月には、本館1号館リニューアルオープン記念展示「響鳴する知の遺産～グローバル視点による名著の数々」を開催した。期間中（10月8日～11月3日）約1,800人の来場者が観覧し、好評を得た。
- ・平成27年3月には、第3回国連防災世界会議開催記念展示「The Amazing Collections of Tohoku University Library」を開催した。期間中（3月9日～4月10日）約1,200人の来場者が観覧し、好評を得た。
- ・『東北大学の至宝』英語版を編集し、平成27年3月に刊行した。

5 東日本大震災記録の継承<部局ビジョンから>

永く後世に東日本大震災の記録を継承するために、震災ライブラリーによる資料の収集・保存・公開活動を継続する。（Vision 3：震災復興、Vision 5社会学連携関連）

- ・震災の記録を後世に引き継ぐとともに、震災の経験を学習・研究を通して社会に活かすために、「震災ライブラリー」として収集しており、公開している資料は、現在約4,000冊に達している。このアーカイブ活動は、被災地の大学図書館、県立図書館及び国立国会図書館などとも情報交換を行いながら、連携・協力して実施している（図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の中心的役割を果たしている）。
- ・平成27年3月に開催された「第3回国連防災世界会議」のパブリックフォーラムの一つとして、「震災ライブラリー」の公開と、本館エントランスロビーにおける東日本大震災の被災と復旧の記録パネル展「At That Time そのとき私たちができたこと」を開催した。国内外から見学者が訪れた。